

令和6年 5月 22日

学校名 鈴鹿市立鈴西小学校

学校長名 三浦 靖樹

令和6年度 校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら判断して行動し、
よりよい社会や人生を切り拓いていく児童の育成を目指して」

教科・領域：算数科

2 主題設定の理由

(1)昨年度までの研修について

本校の児童は、穏やかで優しく、指示やルールをよく守り、与えられた課題に対して一生懸命取り組もうとする児童が多い。一方で、自ら問いをたてたり、課題を見つけたりする力が弱く、日常生活や授業の中でも、主体的・対話的に学ぶ姿がしっかりできているとは言い難い状況である。また、児童数の減少に伴いクラス替えが行われることが無くなり、人間関係の固定化が起こり、今後いろいろな人と関わる機会も減っていくことが考えられる。学習と人権教育の両面から子どもたちの課題を捉えていくことが、今後益々大切になってくるだろう。

本校は2020年度より、「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら判断して行動し、よりよい社会や人生を切り拓いていく児童の育成を目指して」と研究主題を設定し、異年齢集団による学びを通して校内研究を推進してきた。

本校では1～6年生で形成した異学年集団(以下たてわり班)において、行事を行ったりレクリエーション(れいせいっこタイム)を行ったりしている。これら取組は、毎年、規模や取り組み方には多少の変化はありながらも、本校に脈々と受け継がれてきているものである。このたてわり班での活動を見ると、6年生の責任感は強くなり、自分の経験や知識を基に下級生と接し、下級生はそんな6年生から多くのことを学ぶ姿が見られる。また、学年を超えた人間関係が形成されていき、その中では上記のような課題解決への糸口が見られた。そのため、このたてわり班活動を学習場面に広げることで研究主題に迫ることができるのではないかと考え、研究を進めてきた。

ア 成果

2020年度からは、れいせいっこタイムというたてわり班活動に加え、

- ・サーチ学習…子どもたちが自ら課題を立てて行う探究学習
(低学年・高学年に分かれて実施)
- ・学びっこタイム…朝のモジュールでの基礎・基本の学習(主に高学年)

の二つの取組を始めた。この三つの取組を柱として、本研究の土台作りを2020年度は行った。

2020年度に取り組んだサーチ学習後の高学年の児童アンケートでは、「学年を超えて協力することはできましたか」…肯定的意見95%、「自分の意見を伝えることができましたか」…肯定的意見92%、「学級での学習と比べて積極的に参加することができましたか」…肯定的意見89%と、前向きに学習に取り組む児童の姿が見られた。2021年度のアンケート結果では、上記の項目に加え「調べる力がつくと思いますか」…95.2%、「情報をまとめる力がつくと思いますか」…95.2%、「発表する力がつくと思いますか」…94.2%とその他の項目も高い結果が出ており、サーチ学習の効果を児童も実感しつつある。

2021年度では低学年においてもサーチ学習を実施してきた。初めて取り組んだが、「学年を超えて協力することはできましたか」…肯定的意見 91.4%、「自分の意見を伝えることができましたか」…肯定的意見 94.7%などの項目を始め、低学年においても前向きにサーチ学習に取り組む姿が見られた。

このように、新型コロナウイルスの影響により十分にたてわり班による学習や活動へ取り組めなかった部分はあるが一定の手ごたえを得ることができた。また、日々の学校生活や授業の中で「このような事を学んでみたい」「問題を自分たちで解決していきたい」など「自ら課題を見つけ」、「自ら判断し行動する」姿が見られてきており、異年齢学習や活動が活きているように感じる場面も増えてきている。また、2021年度のサーチ学習では、課題解決に向けて必要な情報をグループや個人で集める姿がたくさん見られ、「自ら学ぶ」力も着実についてきている。研究初年度の児童質問紙の数値との比較からも『国語の勉強は好きですか』(全国平均より-19.0 ポイント→+0.6 ポイント)、『算数の勉強は好きですか』(全国平均より-16.3 ポイント→+6.5 ポイント)など、結果が表れ始めていると言えるだろう。

2022年度は、2021年度の課題や成果をいかして、低学年、高学年ともに年間を通してサーチ学習に取り組むことができた。サーチ学習のアンケートからも肯定的な意見が多かった。子どもたちの様子をもても、異学年のメンバーと協力して意欲的に取り組んでいる。ただ普段の授業や生活に役立てることはまだまだできていないと考える。

昨年度は、低学年においては、それまでの実践に加え、たてわり班での清掃活動に取り組んだ。成果として、3年生は責任感をもつことができ、1、2年生は3年生の姿を見て、掃除の仕方を学ぶことができた。高学年においては、「鈴西小学校の

理解を深め、発信しよう」というテーマで総合的な学習を異学年で進め、教員を含め、鈴西小学校の歴史などの新しい発見をすることができた。アンケート結果では、「サーチ学習が好き」と回答した高学年児童は85％と肯定的な回答が多かった。「学年をこえて協力できた」と答えた児童は90％近かった。また、2年間サーチ学習を行った6年生の全国学力状況調査の児童質問紙では、「人が困っているときは、進んで助けていますか」…全国との差7ポイント以上肯定的な回答、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」…85％と全国と17ポイント以上肯定的な回答だった。一部において成果を感じることができた。

イ 課題

① 学習面

サーチ学習(総合的な学習の時間)において、研修主題に迫る一定の成果はあったが、令和5年度第2回みえスタディチェック算数において、県平均より－6ポイントだった。特に総合的な学習において、本校が求めている児童の姿が見られたが、教科の学習において、そこで培った力を確かな学力として発揮することができていないところがある。

授業中、特に算数科において、課題に対して、すぐにあきらめてしまう児童、自信のなさから自分の考えを進んで言えない児童がいる。そのため、一部のわかる児童を中心に授業が進んでいることが多い。ただ、机間指導をしている中で、少しヒントを与えたり、自信のなさを解消することができたりすると、課題に取り組めることもある。

また、単学級になったことで、人間関係の固定化し、考えや意見に対して、あの子の意見だから正しい、間違っているという固定観念があるように感じる。そのため、意見や考えをフラットにみることが難しい。課題に対して誰もが、考えや意見を言いやすいとは言えない。そのため、課題に対して、クリティカルに思考できるような力を身につけさせたい。

② 生活面

たてわり班活動・学習を多く取り入れてきたことで、他学年に対して、基本的に優しく接し、リードできる児童は多い。一方、全学年が単学級になったことで、人間関係も固定化されている部分もあり、同じ学年の児童に厳しく接する部分がある。

また普段の学校生活においても、一部の意欲的な児童に頼っている部分があり、係活動や委員会などが進められていく様子が見られる。

3 研究内容及び方法(今年度の取組)

前述のような課題を克服するため、今年度から算数科を中心に取り組むことにした。

① 算数科における習熟度別少人数授業

本校では、「わかる授業推進事業」に指定されており、3年生～6年生における習熟度別少人数授業を実施することになった。学年が上がるにつれて、特に算数科において、学力(課題)の差があり、クラスの中で多数の支援を必要とする場合がある。そうした中で習熟度別少人数授業を行うことで、よりきめ細かな支援や手立てが打てると考える。習熟度クラス編成について、基礎的な指導を着実に行うコースと、発展的な指導を行い理解を深めるコースの2つに分けていきたい。

習熟度クラス編成の進め方、効果について研究、検証するために、年に3回授業研究を行う。その際、事前検討会・事後研究会(ワークショップ形式)をもち、課題を共有し、次回につなげていく。

また、年間の中で、2週間程度、授業力UP週間を設定する。互いの授業を見合い意見交換することを通して授業力の向上を目指す。気軽に授業を見に行ける環境づくりや、意見交換が活発になるワークシートの作成など、さらに効果的な取り組みになるように改善していく。

② たてわり班活動・学習の充実

児童が自ら課題を設定して学びを深める探究学習(サーチ学習)、1～6年生のたてわり班で遊ぶ活動(れいせいっこタイム)、高学年では朝のモジュールでの基礎・基本の学習、低学年では読み聞かせや思考スキルなどのたてわり班活動(学びっこタイム)を行う。一人ひとりが班の中で活躍できるよう、テーマ設定や指導を工夫する。

サーチ学習

サーチ学習では、あるテーマに対して、4～6年のたてわり班ごとに問いや課題を設定して学習を行っていく。カリキュラムマネジメントを行い、総合的な学習の時間を各学期に集中して取り組む期間を設けて実施していくこととする。

サーチ学習が行われる期間、授業を実施した日は、10分間ミニ会議を開催し、その日の学習の振り返りや次の学習の確認を行うこととする。

サーチ学習を進めるにあたり、以下のようなテーマと学習の流れで行っている。

年度	サーチ学習のテーマ
2021年度 2024年度	地域の産業「植木」について考えよう
2022年度	お茶をもっと楽しもう
2023年度	鈴西小学校の理解を深めて発信しよう

サーチ学習の流れ	留意点
動機付け	子どもの探究心が高まるように刺激する。地域の特性や文化を取り上げ、地域からゲストティーチャーを招いて行っていく。
問いを生み出す ・計画を立てる	マッピングなどの考える技法を用いて行う。様々な問いを出し合う中で、自分たちのグループで学習していくテーマを決めていく。そして学習していく内容について、分担を決める。発達段階や得手不得手などに応じて分担が決まるようにグループの中で話し合う。
探究活動を行う	グループで話し合いながら学ぶ時間を大切にする。また、静かに一人で学ぶ（脳がアクティブに深い思考をしている）ことも大切にしていく。
発表をする	それぞれが探究活動をしたことをまとめ、発表を行う。班ごとに発表を行うこともあれば、学校全体で発表することもありうる。

れいせいっこタイム

れいせいっこタイムは、1～6年生のたてわり班で遊ぶ時間である。本校において伝統的に受け継がれてきている活動である。このたてわり班で、運動会や森のまつり、6年生を送る会などの行事にも取り組んでいる。

遊びについては、学習よりも活動に近いものになるが、同じ班の仲間を理解する大切な時間となる。他学年や様々な友達と遊ぶことで児童間の理解を深めたり、互いに配慮し合う大切さを学んだりできるであろう。学びっこタイムやサーチ学習での学び合いにもつながってくる活動である。月に1回程度行っていく。

まなびっこタイム

与えられた課題に対して自分で計画を立ててモジュール学習をすすめていく時間が「まなびっこタイム」である。自分で学習の計画を立てることで、『自ら学ぶ力』が鍛えられるとともに、自分の力を客観的に捉える力が高められると考える。

4～6年においては国語科の中で系統だった学習ができるものを取り入れた。例えば、季節の言葉や短歌・俳句、漢字の学習などを取り上げ、お互いに問題を作って出し合ったり、作品を批評しあったりしていきたい。上級生から教えてもらったり、下級生からヒントをもらったりするなど、関わり合いの中から学習をさらに進める時間とし、自然に子どもたち同士で学びに向かう姿を期待する。

1～3年生においてははれいせいっこタイムと同様、少人数のグループで簡単なゲームをしたり、お互いに読み聞かせをしたりして、人間関係を築く土台として期待したい。

③ 働き方改革

校内研修を推進していく上で、学校行事や校務分掌を精査していき、研修する時間を確保したいと考える。各委員会、各分掌、各担当で、昨年度までの提案を踏襲するだけではなく、本来の目的を再確認したり、他の仕事とのバランスを考えたりしながら、提案することを意識していきたい。そうしていく中で、教材研究をする時間が増えたり、子どもとかかわる時間が増えたりすることを期待したい。

④ 非認知能力の育成

非認知能力について職員で共有するために校内研修を行う。事前アンケートの結果をもとに、サーチ学習や授業の計画を立てるようにする。評価の方法として、ふりかえりの項目の中に、非認知能力に関係する項目を用意し、子どもたちに振り返らせる。学期や年度末にアンケートを行い、事前アンケートと比べ、変化をみていく。

授業やたてわり班活動・学習の中で、鈴鹿市版「非認知能力」にある、やりぬく力、自制心、自己肯定感、社会性をはぐくむために、教師と児童がその価値を共有し、授業の中で意識付けていきたい。例えば、ふりかえりの中で、めあてに対するふりかえりだけでなく、上記にあげた4つの非認知能力についても振り返らせる。

4 年間研修計画

月	研修内容
4月	・研究主題、めざす子ども像など本年度の方向性の検討・決定 ・学年の取組の計画、年間カリキュラムの作成 ・サーチ学習と学びっこタイム年間計画作成について ・たてわり班の作成 ・思考スキル
5月	・指導案の書き方の提案 ・学力調査、スタディチェックに係る取組
6月	・まなびっこタイム ・模擬授業
7月	・れいせいっこタイム ・児童アンケート検討
8月	・中学校区研修会 ・2学期研修・サーチ学習の計画 ・人権レポート研修会 ・他校研究会や研修会、鈴教研への参加
9月	・れいせいっこタイム
10月	・まなびっこタイム
11月	・まなびっこタイム ・授業研究(11/1)
12月	・児童アンケートの実施 ・授業研究(12/3)
1月	・れいせいっこタイム ・3 学期サーチ学習の計画作成 ・授業研究(1/31)
2月	・まなびっこタイム
3月	・今年度の成果と課題について ・次年度に向けて